ろうきん
SDGs Report
2021

ろうきん

トップメッセージ

全国労働金庫協会
理事長
中江 公人

読者の皆さま、「ろうきん SDGs レポート 2021」へようこそ！

新型コロナウイルスとの長い闘いが続いています。一方で、地球温暖化が関係していると言われる異常気象も多発しています。今、地球があちこちで悲鳴をあげているかのようです。そして、このままでは、私たちの経済社会は持続可能なものではないと、人類に警告を与えていると思えてしかたありません。

しかし同時に、より良い社会、より良い世界を築くチャンスを私たちは与えられているのではないでしょうか。そしてそれは、間違いなく、SDGs へと続く道です。SDGs のめざす「誰ひとり取り残さない」社会を築くことを急がなければなりません。それは、ろうきんの理念・ビジョンに掲げる「人々が支え合う共生社会」の実現への道でもあります。

このコロナ禍で、貧困や格差の問題、社会的孤立など様々な社会課題が浮き彫りになりました。今回のパンデミックやあるいは大規模な自然災害が発生した時に、特に社会的に弱い立場にある人たちにしわ寄せがいくことを、私たちは改めて認識しました。

働くことや暮らしの安心を支えるセーフティネットを、公助と共助、自助が連携し補完し合いながら、社会全体で構築していくことが今こそ求められています。

その中で、ろうきんは、ろうきんならではの共助のネットワークと、金融機能を活かしながら、確かな役割を果たしてまいります。

そのために、ろうきんは、働く人々の大切な資金を「意思のあるお金」として、より良い社会の実現のために、持続可能で包摂的な社会の実現のために使うという流れを、会員・顧客とともに、ESG 投資や社会課題に取組む非営利・協同セクターへの支援・融資などを通じてつくりだしていきます。

本レポートは、2019 年 3 月に策定した「ろうきん SDGs 行動指針」に基づき、主としてこの一年間、業態をあげて取組んできた活動を報告するものです。

全国 13 のろうきんにおいて、労働組合や生協など他の協同組合、労働者福祉に関わる団体、NPO、自治体などと連携して行ってきた、地域に根ざす特色ある取組みを紹介しています。是非、ご一読いただき、率直なご意見・ご感想をお聞かせください。皆さまの声を今後の取組みに活かしてまいります。

SDGs は今や世界の共通言語です。国も組織も個人も、誰もが主役となりうるものです。皆さん一人ひとりが、自分事として SDGs に取組む、私たち一人ひとりの小さな一歩が世界の課題につながっていく、そんな思いを私たち皆が、共有できるよう、このレポートがその一助となれば幸いです。

Contents

1 トップメッセージ
3 ろうきんの社会課題への取組みの歴史
5 ろうきんがめざす「人々が支え合う共生社会」
7 ろうきんの社会的役割とお金の流れ
9 ろうきんSDGs行動指針に基づく取組み
11 社会課題解決に向けたろうきんの取組み
13 “5つのP”を支える取組み実績報告
21 「意思のあるお金」による社会課題への取組み事例

<編集方針>

この「ろうきんSDGsレポート」は、全国のろうきんが実践しているSDGsに貢献する活動を紹介し、会員をはじめとした様々なステークホルダーとの「共感の輪」を広げていくための報告書です。主に2020年度の活動を中心に紹介しています。

SDGs（Sustainable Development Goals）とは

世界では環境汚染や格差問題など、全世界で取組まなければならない多くの課題が残されています。

2015年、それら様々な課題に対して、17のゴールと169のターゲットからなる国際開発目標「SDGs（持続可能な開発目標）」が国連において日本を含む世界193ヵ国の合意のもと採択されました。SDGsは2030年までに達成すべき目標とされ、わが国でも2016年、政府に「SDGs推進本部」が設置され、国や自治体、企業やNPO、市民、様々な人々を巻き込んで「SDGs」目標達成のための活動が始まっています。

ろうきんの社会課題への取組みの歴史

1950 年に岡山県と兵庫県で設立されて以来 70 年、常に働く仲間に寄り添い、その時々の社会の変遷により、働く仲間とその家族が取り残されないようセーフティネットとしての機能を果たしてきました。

ろうきんの理念

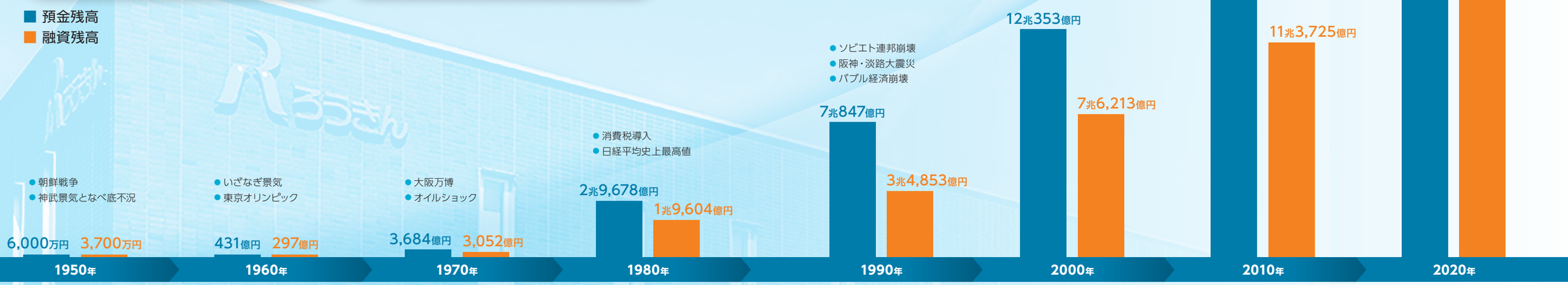
ろうきんは、働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関です。
ろうきんは、会員が行う経済・福祉・環境および文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与することを目的とします。
ろうきんは、働く人の団体、広く市民の参加による団体を会員とし、そのネットワークによって成り立っています。
会員は、平等の立場でろうきんの運営に参画し、運動と事業の発展に努めます。
ろうきんは、誠実・公正および公開を旨とし、健全経営に徹して会員の信頼に応えます。

ろうきんのビジョン

～人々が支え合う共生社会の実現のために～

会員との連携を一層強固なものとし、勤労者にもっとも身近で信頼される協同組織の福祉金融機関としてその真価を発揮します。

1. 勤労者の生活を生涯にわたってサポートします。
2. 非営利･協同セクターの金融的中核としてその役割を発揮します。
3. 人と人、人と地域をつなぐことを通じて、「共生社会」の実現に貢献します。



勤労者のための金融機関を

1950年
労働金庫は勤労者自身の手により勤労者の生活を支えるため設立されました。

勤労者の資産形成促進

1972年
勤労者の資産形成を支える財形貯蓄の取扱いを開始しました。
現在では、取扱件数・残高ともに業態別第1位です。

サラ金被害から勤労者を守る

1983年
消費者金融の高利・多重債務が社会問題となる中、勤労者の被害の防止と救済を目的に、全国で「サラ金対策キャンペーン」を実施しました。

ろうきんの取組みは、ILO（国際労働機関）から、2011年に「労働金庫：フィナンシャル・インクルージョンを推進し、成功を収めている労働者組織の物語」として、2019年に「労働金庫：日本において70年にわたり勤労者の金融アクセスを強化することで、包摂的な社会を構築してきた取組み」として発表され、「世界中の労働組合、金融機関、その他の団体に素晴らしい閃きをもたらすもの」であると評価されています。

2030年に向けて

ろうきんは、2030年のSDGs達成をめざして、共助のネットワークと金融機能を活かしながら、勤労者の大切な資金を「意思のあるお金」として、持続可能な社会の実現のために使うという流れをつくりだしていきます。

福祉事業の助成

1995年
阪神・淡路大震災を受け、緊急融資制度と震災遺児支援定期を創設しました。

2000年
阪神・淡路大震災でのいわゆる「ボランティア革命」を受け、NPOを支援するため、金融界初NPO向け融資制度を創設しました。

就労支援・生活応援

2005年
消費者教育誌「マネートラブルにかつ！」を発行開始。その時々のニーズに合わせ改訂され、現在は第6版となりました。
「ろうきん森の学校」を開校しました。

2008年
リーマンショックを受け、「就職安定資金融資」の取扱いを開始しました。

2009年
お金に係る諸問題に対応する生活応援運動の取組みが評価され、ニッキン賞を受賞しました。

2010年
労金連合会が SRI（社会的責任投資）原則を制定しました。

被災者支援とSDGsの取組み

2011年
東日本大震災の復興支援に尽力しました。
「21世紀金融行動原則」へ署名しました。

2014年
「ろうきんビジョン」を策定しました。

2016年
熊本地震の復興支援に尽力しました。

2017年
労金連合会が国連提唱の「PRI（国連責任投資原則）」へ署名しました。

2019年
「ろうきんSDGs行動指針」を策定しました。

ろうきんがめざす「人々が支え合う共生社会」

勤労者を取り巻く社会課題に『共助』『共感』『循環』の３つのアプローチで取組みを展開し、「人々が支え合う共生社会」の実現をめざします。

社会課題

- 気候変動
- 少子高齢化
- 格差問題
- 人権問題

パート・有期雇用等の不安定な雇用で働く勤労者の増加

育児・介護と仕事の両立

老後に対する不安

気候変動による災害の頻発

進展するデジタル化への対応

３つのアプローチ

『共助』

「共助」の活動として、「公助」を補完し、「自助」だけでは乗り越えられない課題の解決を図る

『共感』

「共感」の輪を広げ、最大化していく

『循環』

「意思のあるお金」が社会に循環し、より良い社会づくりに向かう仕組みをつくる

ろうきんが取組むSDGs “5つのP”

People －人間－

1 貧困をなくそう / 2 飢餓をゼロに / 3 すべての人に健康と福祉を / 4 質の高い教育をみんなに / 5 ジェンダー平等を実現しよう / 6 安全な水とトイレを世界中に

Prosperity －豊かさ－

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに / 8 働きがいも経済成長も / 9 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10 人や国の不平等をなくそう / 11 住み続けられるまちづくりを

Planet －地球－

12 つくる責任 つかう責任 / 13 気候変動に具体的な対策を / 14 海の豊かさを守ろう / 15 陸の豊かさも守ろう

Peace －平和－

16 平和と公正をすべての人に

Partnership －パートナーシップ－

17 パートナーシップで目標を達成しよう

基本的な考え方

働く人が、年齢や性別、資産の多寡や、都会や地方などの地域差、正規・非正規雇用の別などにかかわらず、等しく必要な金融サービスを享受することができ、互いを尊重して、助け合いながら、快適かつ安心に、将来に希望を持って暮らしていける社会の実現をめざしています。

ろうきんの取組み

ろうきんでは、労金運動を通じた勤労者の生活向上というろうきんの使命を徹底追求することを通じて、SDGsの実現に向けた取組みを展開し、ろうきんに期待される協同組織金融機関としての役割発揮と社会への貢献を図っていきます。

また、非営利・協同セクターとの地域におけるネットワークを強化・拡大し、金融的中核としての役割を発揮することで、人と人、人と地域をつなぎ、すべての人が安心して暮らすことのできる共生社会の実現に貢献していきます。

人々が支え合う共生社会の実現

誰ひとり取り残さない・金融包摂

人々が、等しく必要な金融サービスを享受することができる社会

相互扶助

人々が、互いを尊重して、助け合う社会

ウェルビーイング

人々が、快適かつ安心に、将来に希望を持って暮らしていける社会

ろうきんの社会的役割とお金の流れ

勤労者の皆さまからお預かりした資金は、ろうきんの理念・ビジョンに則った「意思のあるお金」として、持続可能な社会の実現につながる投融資での運用に、また社会活動やNPO・協同組合との協働により、様々なかたちで、「共生」に使われていきます。

「意思のあるお金」による社会課題への取組み事例 ▶ P21へ

資金循環による共助

勤労者を取り巻く働くことや暮らしセーフティ

社会課題の解決の安心を支えるネットの構築

意思のあるお金

意思のあるお金

意思のあるお金

意思のあるお金

働く人

（労働組合および組合員）

福祉ローン
子育て応援ローン

親の介護があるけど子どもも小さい

多重債務相談

多重債務をどうにかしたい

低金利のローン

家を建てるためのローンを組みたい

勤労者生活支援特別融資制度

新型コロナウイルスの影響で収入が…

ろうきん投資信託

老後の資金を貯めたい

ろうきん定期預金・財形貯蓄

大切な資金を安全・確実に増やしたい

融資

預金

働く人からお預かりした資金を働く人へ貸し出す

ESG 投融資

労金連合会は、投融資行動にあたり、ESG課題のポジティブな評価による投資（グリーンボンドやソーシャルボンド等の債券、ESG 株式投資、ESGファンド投資等）を実施しており、2021年3 月末現在の投融資残高は 945 億円となっています。その中で、株式投資においては、ESG 課題のうち、「S：社会（労働環境）」に重点を置いた評価・投資を行い、エンゲージメント活動にも取組んでいます。
労金連合会は、国連が提唱する「責任投資原則」（PRI）に業態を代表して署名しています。また、全国のろうきんは、金融機関の行動指針として策定された「21世紀金融行動原則」（持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則）に署名を行っています。

Signatory of: PRI Principles for Responsible Investment　21世紀金融行動原則

金融市場

運用　調達

NPO・協同組合

パートナーシップ（協働）

ろうきんは、働く仲間とその家族が安心して快適な日々を送れる社会づくりをめざすため、国内の協同組織・協同組合とのパートナーシップを大切にしていきます。

生活協同組合
農業協同組合
中小企業等協同組合
森林組合
全国労働者共済生活協同組合連合会
（こくみん共済 coop）

連携

NPO 活動に融資を受けたい

ボランティア活動資金が…

たくさんの人にサービスを

融資　助成　寄付

労働金庫連合会

（労金連合会）

全国のろうきんが行う金融活動を支える「系統中央金融機関」

貸出

預金

ろうきん

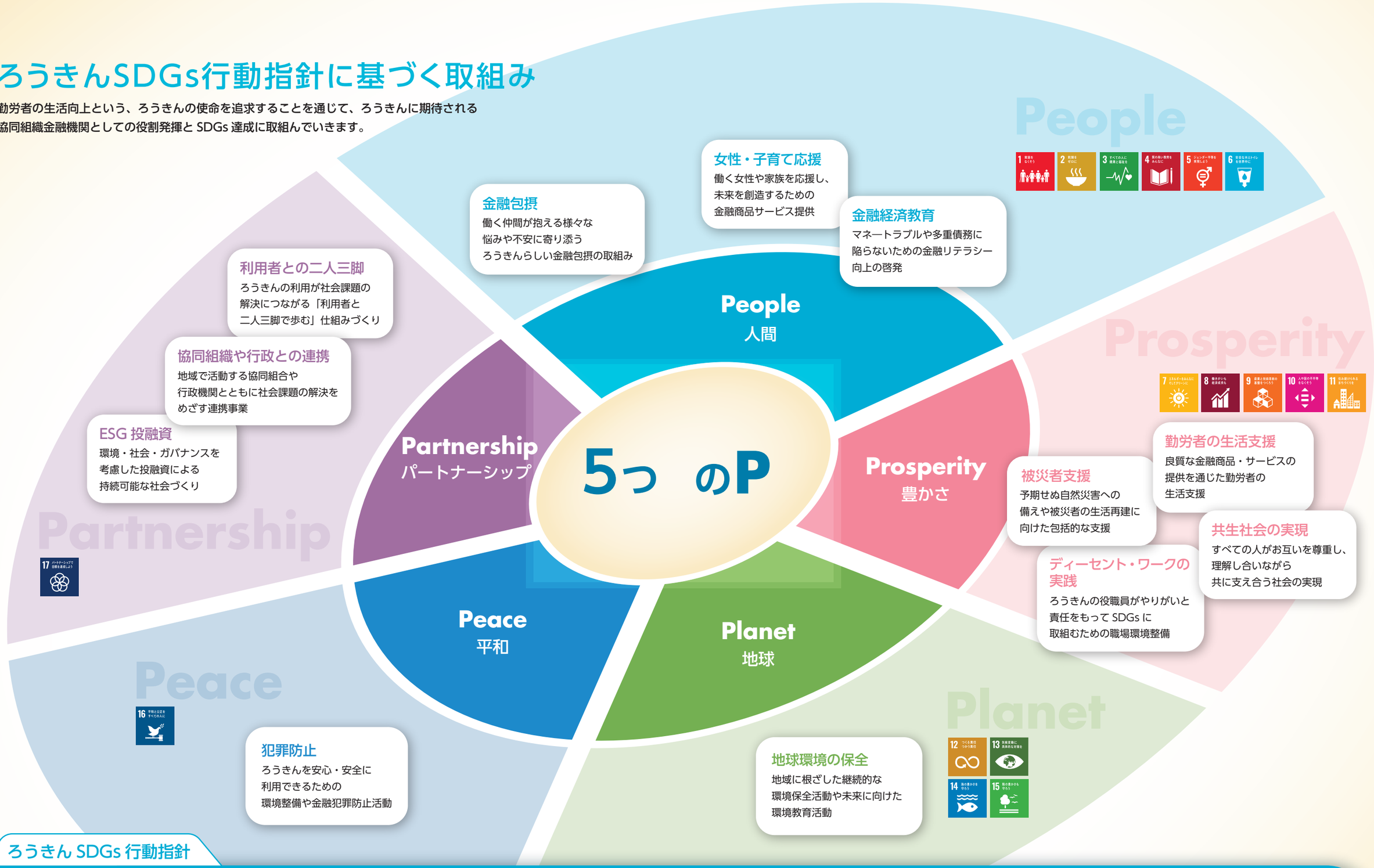
全国 13 金庫
613 店舗
（2020 年 9 月末現在）

ろうきんの社会的役割

ろうきんは、労働組合や生協などの働く仲間がお互いを助け合うために資金を出し合ってつくった、協同組織の福祉金融機関です。お預かりした資金は、大切な共有財産として、住宅・教育・マイカーなど働く仲間とその家族のくらしを守り、より豊かにするために役立てられています。

ろうきんSDGs行動指針に基づく取組み

勤労者の生活向上という、ろうきんの使命を追求することを通じて、ろうきんに期待される
協同組織金融機関としての役割発揮と SDGs 達成に取組んでいきます。



ろうきん SDGs 行動指針

勤労者の生涯にわたる生活向上サポート

〈ろうきん〉は、「ろうきんの理念」とそれを実現するための「ろうきんビジョン」に基づき、勤労者のための非営利の協同組織金融機関として、勤労者の生涯にわたる生活向上のサポートに取組んでいます。〈ろうきん〉は、こうした活動をさらに強化・徹底し、勤労者を取り巻く様々な社会的課題の解決に取組むことを通じて、SDGs の達成をめざします。

労金運動や ESG 投資の実践を通じた「意思のあるお金」による社会的好循環の創出

〈ろうきん〉は、勤労者の大切な資金を、勤労者自身の生活向上のための融資や、社会や環境等に配慮したESG投資などに役立てることを通じて、持続可能な社会の実現に資するお金の流れをつくりだしていきます。

非営利・協同セクターとの連携強化による社会課題の解決

〈ろうきん〉は、労働組合・生活協同組合などの会員や労働者福祉に関わる団体、協同組織・NPO・社会福祉法人・社団・財団などの非営利・協同セクター、自治体などとのネットワークを強化し、連携して地域における福祉・教育・環境・自然災害などの社会的課題の解決に取組んでいきます。

SDGs の達成に向けた「共感の輪」の拡大

〈ろうきん〉は、SDGs 達成に向けた様々な取組みやその成果を発信し、〈ろうきん〉を利用することが SDGs 推進につながっていくことを会員や勤労者など広く社会に伝えることにより、SDGs 達成に向けた共感の輪を広げていきます。

社会課題解決に向けたろうきんの取組み

ろうきんは、複雑化・多様化する社会課題に対処するため、SDGs の達成をめざします。
SDGs の 17 ゴール実現に向けた取組みを展開するにあたり、
2019 年 3 月に「ろうきん SDGs 行動指針」を策定しました。

ろうきんが特定した社会課題

5 つの P に対応する社会課題

全国のろうきんの取組み

社会課題を解決するためのろうきんの取組み

People 人間

金融包摂
働く仲間が抱える様々な悩みや不安に寄り添うろうきんらしい金融包摂の取組み

金融経済教育
マネートラブルや多重債務に陥らないための金融リテラシー向上の啓発

女性・子育て応援
働く女性や家族を応援し、未来を創造するための金融商品サービス提供

- 金融リテラシー向上の取組み(中央) P13
- 労働組合に加入している臨時・パート等で働く方にご利用いただけるローン制度(新潟・沖縄) P13
- Web取引件数に応じた「放課後児童クラブ」「放課後デイサービス」への寄付(新潟) P13
- 妊活サポートローン“あ・ゆ・み” および “Hug-Kumi(はぐくみ)”(静岡・沖縄) P14
- NPOフードバンク団体への食料品寄付(北陸) P14
- 奨学金借換専用ローンの推進(北陸・北海道・東北・中央・東海・近畿・中国・四国・九州・沖縄) P14
- ろうきんの利用が、誰かの笑顔につながるしくみ(中国) P14
- 児童養護施設の子どもたちへの図書寄贈「ツカエル図書館」(九州) P14
- “ろうきん こくみん共済coop 働く仲間のゆめ・みらい基金”(沖縄) P15
- 認知症等への対応(全国) P15
- 社会福祉協議会「緊急小口資金」特例貸付の取次(全国) P15
- 勤労者生活支援特別融資制度(全国) P15

Prosperity 豊かさ

被災者支援
予期せぬ自然災害への備えや被災者の生活再建に向けた包括的な支援

勤労者の生活支援
良質な金融商品・サービスの提供を通じた勤労者の生活支援

共生社会の実現
すべての人がお互いを尊重し、理解し合いながら共に支え合う社会の実現

ディーセント・ワークの実践
ろうきんの役職員がやりがいと責任をもってSDGsに取組むための職場環境整備

- 「東北ろうきん 東日本大震災復興展示室」の開設(東北) P16
- 女性応援プロジェクト “ろうきんchou-chou(シュシュ)”シリーズ(長野) P16
- 「はたらく人にありがとう」メッセージ募集(東海) P16
- ATM手数料キャッシュバック(全国) P17
- 外国語6か国語での口座開設等パンフレット、新約申込書記入例の作成(全国) P17
- 災害救助法の適用を受けた自然災害により被災された方への対応(全国) P17
- 勤労者の資産形成に係る役割発揮宣言(全国) P17
- 労働金庫にふさわしい「職場風土」の確立に向けた取組み ～ディーセント・ワークの実践～(全国) P17

Planet 地球

地球環境の保全
地域に根ざした継続的な環境保全活動や未来に向けた環境教育活動

- 無担保ローン“役立宣言”4商品の契約毎に静岡県地球温暖化防止活動推進センターへ寄付(静岡) P18
- ろうきん森の学校(全国) P18

Peace 平和

犯罪防止
ろうきんを安心・安全に利用できるための環境整備や金融犯罪防止活動

- 勤労者の生活を守り豊かにする「金融教育」の積極推進(全国) P18
- 安心してご利用いただくための金融犯罪、特殊詐欺の防止の取組み(全国) P19

Partnership パートナーシップ

利用者との二人三脚
ろうきんの利用が社会課題の解決につながる「利用者と二人三脚で歩む」仕組みづくり

協同組織や行政との連携
地域で活動する協同組合や行政機関とともに社会課題の解決をめざす連携事業

ESG投融資
環境・社会・ガバナンスを考慮した投融資による持続可能な社会づくり

- 「北海道働き方改革推進企業認定制度」で認定された企業の従業員を対象とした“働くひと応援ローン”(北海道) P19
- 被災した地域や被災者の支援を行うNPO等の活動を支援する「東北ろうきん復興支援・社会貢献団体助成金制度」(東北) P19
- 被災地支援団体と連携した東日本大震災の被災地復興支援活動(全国) P20
- 近畿2府4県のNPO支援センターとの協働による“近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度”(近畿) P20
- ローン契約毎に契約者が選択した寄付先(教育、子育て支援、障がい者支援、環境保護、各関連団体)への寄付(四国) P20
- 日本協同組合連携機構(JCA)との連携(全国) P20

人々が支え合う共生社会の実現

“5つのP”を支える取組み実績報告

People ― 人間 ―

ろうきんは、年齢・性別・雇用環境・経済的地位などの違いによって、貧困や社会的孤立に陥ることがなく誰もが健康で安心して働き暮らせる社会の実現をめざしています。そのために、勤労者の様々な生活資金ニーズに応えるろうきんらしい金融商品サービスを提供するとともに、勤労者が自立的で安心かつ豊かな生活を送るための金融知識と判断力を高める金融経済教育に取組んでいます。

中央ろうきん

金融リテラシー向上の取組み

2022 年 4 月の“成年年齢引下げ”を見据え、若年者のマネートラブル防止に向けて作成した金融教育 DVD・ワークブック『新・大人社会へのパスポート』が、消費者教育教材資料 2020 において「優秀賞」を受賞しました。この DVD・ワークブックは、大学ゼミとの合同プロジェクトにより若者目線で作成しました。若者が知っておくべきクレジットカード・ローン契約の支払い遅延や悪質商法による被害の事例を紹介し、“成年”となることの責任についての理解を深めることを目的としています。

地方自治体や全国の消費生活センター、教育機関（中学校、高校、大学等）など依頼を受けた団体にＤＶＤを無償で提供し、地域社会の金融教育教材として活用されています。

新潟・沖縄ろうきん

労働組合に加入している臨時・パート等で働く方にご利用いただけるローン制度

新潟ろうきんでは、働き方が多様化する中、臨時･パート等で働く会員組合員の方のマイカー購入や、お子様の教育費用等の生活資金ニーズに応えるための融資制度“ぱぁとな～”※を提供しています。

ご利用者からは、“ぱぁとな～”を利用することで、「年収が 150 万円に満たなくても１人でローンを組むことができ、助かりました。」、「勤続年数が 1 年未満でしたが、通勤時に利用する車のローンを組むことができました。」等のお声をいただいています。

沖縄ろうきんにおいても 2019 年４月より“パートナーゆいサポート制度”※をお取扱いしています。

※ ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくは新潟・沖縄の各ろうきんまでお問い合わせください。

新潟ろうきん

Web 取引件数に応じた「放課後児童クラブ」「放課後デイサービス」への寄付

新潟ろうきんでは、「あんしんスマイルプロジェクト」の一環として、2020 年８月１日（土）～ 12 月 31 日（木）の期間中に“ろうきんダイレクト”、“ろうきんアプリ”、“団体インターネットバンキング”および“ホームページ”からの対象となるお取引（振込・振替や住所変更など）の実施１件につき 39 円を、新潟ろうきんが拠出し、県内の「放課後児童クラブ」や「放課後デイサービス」に寄付することで、子どもたちが安心して過ごせる放課後の生活を守る活動を応援しました。

期間中の寄付実績は 5,000,000 円となっています。

静岡・沖縄ろうきん

妊活サポートローン“あ・ゆ・み”および“Ｈｕｇ - Ｋｕｍｉ（はぐくみ）”

静岡ろうきんでは、仕事と不妊治療の両立支援に対する社会的ニーズが高まる中、福祉金融機関として不妊治療を必要とする勤労者を経済面でサポートすることを目的に、妊活サポートローン“あ・ゆ・み”※の取扱いを 2020 年 10 月より開始いたしました。不妊治療は、期間の見通しが難しく身体的・経済的な負担が大きいことはもとより､治療を知られたくないといった精神的な負担も伴います｡本ローンはインターネット受付専用のカードローンで、お客さまのプライバシーを守りながら非対面でお申込みいただけます。

沖縄ろうきんにおいても 2019 年５月より妊活サポートローン“Hug-Kumi（はぐくみ）”※をお取扱いしています。

※ ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくは静岡・沖縄の各ろうきんまでお問い合わせください。

北陸ろうきん

NPO フードバンク団体への食料品寄付

北陸ろうきんでは、役職員が家庭で使いきれない食品を持ち寄り、NPO 法人のフードバンク団体に寄付する「フードドライブ」を行いました。インスタント食品や缶詰など 704 品が集まり、「NPO 法人いしかわフードバンク・ネット」等の NPO 法人フードバンク団体を通じて支援を必要としている福祉団体や施設等に寄贈いたしました。

今後も NPO 団体などと連携しながら、支援を継続してまいります。

北陸・北海道・東北・中央・東海・近畿・中国・四国・九州・沖縄ろうきん

奨学金借換専用ローンの推進

北陸ろうきんでは、貸与型の奨学金を利用した若者が、就職と同時に奨学金の返済困難に陥るといった社会問題に対応するべく、借換専用の教育ローン『奨学金専用借換プラン』※を提供しています。奨学金の返済期間や金利を見直しすることで月々の返済負担の軽減を図り、奨学金の返済に苦しむ「はたらく若者」を金融面から支援しています。

全国のろうきん（北海道、東北、中央、東海、近畿、中国、四国、九州、沖縄）でも、奨学金に係る悩みに応えることのできる『奨学金借換ローン』※など、教育ローンをお取扱いしています。

※ ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくは各ろうきんまでお問い合わせください。

中国ろうきん

ろうきんの利用が、誰かの笑顔につながるしくみ

中国ろうきんでは、“ろうきんの利用が、誰かの笑顔につながるしくみ”として、教育ローン等の新規利用や学資積立「ドレミ協奏曲」の新規契約およびカードローン「マイプラン」の新規契約または利用限度額の増額件数に応じて、中国５県の「いのちの電話」への寄付を行っています。「いのちの電話」は、「電話を通して人々の悩みを聞き、隣人として共に考え、心の支えになっていこう」といった活動を行うボランティア団体で、主に自殺予防のために活動しています。

九州ろうきん

児童養護施設の子どもたちへの図書寄贈「ツカエル図書館」

九州ろうきんでは、子どもたちの成長を応援する活動として、2011 年より九州各県の児童養護施設に年２回（七夕とクリスマスの時期）、子どもたちが希望する図書を寄贈しています。取組み開始から 2020 年 12 月末までの寄贈数は、合計 12,225 冊となりました。

子どもたちからいただいたお礼のメッセージは、地域の皆さまとともに成長を見守ることを目的に最寄りの営業店に一定期間掲示させていただいています。

沖縄ろうきん

“ろうきん こくみん共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金”

沖縄ろうきんでは、「困難を抱える働く仲間とその大切な人に寄り添うことはろうきんの原点」であると考え、会員団体・県内各労働団体・協同組合などとチカラを結集し、2016 年に「ろうきん こくみん共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金」を立ち上げました。沖縄県では、「子どもの貧困」が深刻な社会問題となっています。その背景には、全国と比べて低い所得水準や最低賃金、４割近い非正規雇用者率などに起因する「親（働く人・働きたい人）の貧困」といった厳しい現実があります。

基金を通じて、会員・協力団体、そして県内の各労働団体とともに、「貧困の連鎖」を断ち、子どもたちの夢と未来を支えるための取組みを進めています。

全国のろうきん

認知症等への対応

全国のろうきんでは、2021 年４月より後見制度支援預金の取扱いを開始しました。これによりお客様の大切な財産をお守りいたします。また一部の金庫では認知症保険もお取扱いしています。

さらに、沖縄ろうきんでは、保険･医療･福祉･介護など様々な面から総合的に支える機関である地域包括支援センターの職員が講師となって実践する「認知症サポーター養成講座」を職員 161 名が受講しました。高齢化社会が進む現在、見た目では判断しづらい認知症の方への接し方や声掛けの方法、判断に迷う場合の対応について学習し、認知症に対する理解を深め適切なお客さま対応に努めています。東北・中国・四国の各ろうきんでも同様の取組みを行っています。

全国のろうきん

社会福祉協議会「緊急小口資金」特例貸付の取次

新型コロナウイルスの感染拡大が経済活動や人々の生活に甚大な影響を与える中､政府は社会福祉協議会が取扱う「緊急小口資金」に新型コロナウイルスの影響による収入減少者等を対象とする特例措置を設けました。

全国のろうきんは、厚生労働省および金融庁からの要請を受けて、社会福祉協議会の窓口業務の負担軽減等を図るため 2020 年４月から９月まで「緊急小口資金」特例貸付の申請の取次業務を実施しました。その結果、ろうきんでの取次実績は 52 千件にのぼり、公助（社会福祉協議会）と共助（ろうきん）の連携による貸付金交付の迅速化に取組みました。

全国のろうきん

勤労者生活支援特別融資制度

ろうきんでは、勤務先企業の業績悪化もしくは自然災害などによる収入減少、または勤務先の企業倒産やリストラ、自然災害により離職した方に対する生活支援を目的として「勤労者生活支援特別融資制度」をお取扱いしています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により収入が減少した会員組合員への生活支援の観点から、全国のろうきんにおいて統一した融資制度の整備を行い、2020 年４月よりコロナ禍で不安を抱える勤労者の生活支援に取組みました。なお、2020 年度の無担保融資新規実績は 8,176 件（金庫個別取扱い商品を含む）となりました。

また、既にお借り入れいただいている融資の返済条件の緩和や地方自治体との提携融資制度の取扱いなど、会員組合員以外の方を含むすべての勤労者の生活支援に向けた対応を行っています。

Prosperity ― 豊かさ ―

ろうきんは、勤労者の計画的な資産形成をサポートし、ライフステージにおける多様な資金ニーズに応えることで、すべての勤労者とその家族が安全・安心、豊かに暮らせる社会づくりとディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の達成をめざしています。また、誰ひとり取り残さない“ 金融包摂 ”の観点から、自然災害で社会的・経済的に困難な状況に置かれた勤労者や被災者への支援、年齢や障がいの有無、住まいの地域にかかわらず、すべての人に利用しやすいインフラ整備・金融アクセスの改善に取組んでいます。

東北ろうきん

「東北ろうきん 東日本大震災復興展示室」の開設

東北ろうきんでは、東北各地域の震災から復興までの歩みを心にとどめ、また東北ろうきんの震災時の対応を記録することを目的に、2020 年６月、東北ろうきんの復興の拠点と位置付ける大船渡支店の３階に「東北ろうきん 東日本大震災復興展示室」を開設しました。

多くの皆さまに展示室をご覧いただき、東北各地域の災害体験を風化させず、後世に伝えていくよう本展示室を活用した取組みを進めてまいります。

長野ろうきん

女性応援プロジェクト“ろうきん chou-chou〔シュシュ〕”シリーズ

長野ろうきんでは、夢をもって“はたらく”女性を応援したいとの想いから、ろうきん chou-chou シリーズ（3 種の積立商品と 2 種のローン商品）※を提供しています。これらのろうきん chou-chou シリーズは、積立額やローン残高に応じて公益財団法人日本対がん協会「ほほえみ基金」に寄付を行うことで、ピンクリボン運動の支援にもつながっています。

“はたらく”とは、仕事をして給料を得ることだけではなく、自分のため、誰かのために、それぞれの立場で頑張ることであるとわたしたちは考えています。長野ろうきんは、これからも“はたらく”女性のミカタであり続けます。

※ ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくは長野ろうきんまでお問い合わせください。

東海ろうきん

「はたらく人にありがとう」メッセージ募集

東海ろうきんでは、「はたらくこと」について考え、また、「はたらく人への感謝の気持ち」を発信する機会を提供する取組みとして、はたらく人への「ありがとう」の思いを綴ったメッセージの募集を行っています。

2010 年度より開始した本事業は、2020 年度の第 11 回募集までに通算 23,708 通の応募をいただきました。

毎年､応募いただいたメッセージから大賞３作品･入賞 12 作品を選出し､表彰しています。（受賞作品は「はたらく人にありがとう」メッセージ募集の特設サイトに掲載しています。）

2次元コード

全国のろうきん

ATM 手数料キャッシュバック

ろうきんキャッシュカードは、全国のろうきん ATM はもちろん、コンビニ ATM や、JR 東日本の駅構内にあるビューカード ATM でのお引出しが手数料無料でご利用いただけます。また、全国のゆうちょ銀行や MICS 加盟金融機関（銀行・信用金庫等）の ATM でもご利用いただけ、お引出しされた際のご利用手数料を即時お戻しする「ATM 引出し手数料キャッシュバックサービス」※を行っています。

※ 手数料無料やキャッシュバックの条件は各ろうきんにより異なります。詳細は各ろうきんの Web サイト等でご確認ください。

全国のろうきん

外国語 6 か国語での口座開設等パンフレット、新約申込書記入例の作成

ろうきんでは、外国人の方が円滑な預金口座開設ができるよう、ろうきんの概要や口座開設手続き、適切な口座管理を記載したパンフレットおよび普通預金新約申込書の記入例を外国語 6 か国語で作成しました。ろうきんはこれからも、すべての人が利用しやすい環境づくりに取組んでいきます。

全国のろうきん

災害救助法の適用を受けた自然災害により被災された方への対応

ろうきんでは、災害救助法の適用を受けた自然災害により被災された方や親族の方を対象に、生活再建に必要な資金にご利用いただける「災害救援ローン」※（無担保・固定金利・適用金利 1.00%（保証料込み））をご用意しています。

また、被災され住宅ローン等の返済が困難な方には「自然災害による被災者の債務整理に関するガイドライン」に基づいた対応（住宅ローンなどの免除・減額）を行っています。

※ ご利用にあたっては条件がございます。詳しくは各ろうきんまでお問い合わせください。

全国のろうきん

勤労者の資産形成に係る役割発揮宣言

人生 100 年時代の到来を踏まえ、ろうきんは、「勤労者の資産形成に係る役割発揮宣言」を掲げ、「財形貯蓄」や「iDeCo」、「つみたて NISA」等の制度を活用して、勤労者の生涯にわたるライフプランや資産形成をサポートしています。

全国のろうきん

労働金庫にふさわしい「職場風土」の確立に向けた取組み～ディーセント・ワークの実践～

全国のろうきんでは、すべての職員が活き活きと安心して働くことができる環境整備のため、労働金庫にふさわしい「組織風土」の確立に向けた取組みを進めています。2021 年 3 月には、取組みの重点課題である、あらゆるハラスメントを受けることなく安心して就労できる職場環境を確保することを目的に ILO190 号条約の内容を広く盛り込んだ「労働金庫業態におけるあらゆるハラスメント禁止ガイドライン」を策定しました。ハラスメント根絶実現のためには、労使一体となった取組みが重要となることから、併せて中央労使共同メッセージを発信しました。

Planet — 地球 —

ろうきんは、気候変動や生物多様性などの地球環境問題について、地域に根ざした環境保全活動や、責任ある投融資、事業活動での環境配慮などを通じて貢献していくことをめざしています。環境保全活動では、各地域で活動する NPO と協力した里山再生や環境教育、地域の美化・環境保護活動などにも取組んでいます。

静岡ろうきん

無担保ローン“役立宣言”4商品の契約毎に静岡県地球温暖化防止活動推進センターへ寄付

静岡ろうきんでは、環境保護に取組む団体の支援、金庫職員への環境教育、地域の環境保護活動への参加など、様々な環境問題への取組みを行っています。そうした取組みの 1 つに、2009 年に開始した「環境保護に役立宣言」があります。この取組みでは、無担保ローン商品「役立宣言シリーズ」の 4 商品のご契約 1 件につき 50 円を環境問題に取組む団体等に寄付をしています。

2020 年度は 456,950 円を「静岡県地球温暖化防止活動推進センター」に寄付いたしました。

全国のろうきん

ろうきん森の学校

労金連合会は、豊かな森の再生と環境問題に取組む人材育成をめざして、2005 年に「ろうきん森の学校」を開校しました。労金連合会が活動資金を支援し、NPO 法人ホールアース研究所を全国事務局として全国 5 地区（富士山、福島、新潟、岐阜、広島）の NPO と協力しながら、森と人と地域を育む活動を展開しています。

これまでに、「国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）」が推奨する連携事業に認定されたほか、第 5 回いきものにぎわい企業活動コンテストにおいて「公益社団法人国土緑化推進機構理事長賞」を受賞しています。

2020 年は、新型コロナウイルスの影響により、各地区で活動の中止や縮小を余儀なくされましたが、“3 密”を回避する自然体験プログラムの開発や地域連携強化につながる活動など、ウィズ・コロナ時代における新たな取組みも行っています。

Peace — 平和 —

ろうきんは、犯罪や紛争・テロなどの影響を受けることなく、平和かつ公正な生活環境の中で、安心・安全に暮らすことができる社会の実現をめざしています。そのために、リスク管理態勢の強化・コンプライアンスの徹底や、金融犯罪の未然防止に向けた様々な取組みを行っています。

全国のろうきん

勤労者の生活を守り豊かにする「金融教育」の積極推進

全国のろうきんでは、勤労者とその家族の生活を守り、豊かにするため、会員・企業・教育現場等での年代別のマネートラブル防止やライフプランセミナーの開催に加え、多重債務問題の解決に向けた相談活動などの金融経済教育に取組んでいます。

多重債務や悪質商法トラブルを予防するために作成した冊子『マネートラブルにかつ！』は、2005 年の初版発行から改訂を重ね、現在までに 400 万部以上が発行され、全国の企業・労働組合・自治体・教育現場等で広く消費者教育の教材として用いられています。

全国のろうきん

安心してご利用いただくための金融犯罪、特殊詐欺の防止の取組み

全国のろうきんでは、インターネット・バンキングのセキュリティ対策、反社会的勢力との関係遮断、重大な組織犯罪の資金源であるマネー・ローンダリング対策の推進など、各種犯罪の抑止に向けた様々な対策を講じることで、安全かつ安心して金融商品・サービスをご利用いただける環境づくりに努めています。

Partnership ― パートナーシップ ―

ろうきんは、利用者・会員団体とのパートナーシップや、行政・協同組合などとのネットワークを活かして、地域が抱える様々な社会課題に取組む「共生社会の実現」をめざしています。また、環境・社会への配慮や企業統治が優れた企業・団体への投資を通じた持続可能な社会づくりにも取組んでいます。

北海道ろうきん

「北海道働き方改革推進企業認定制度」で認定された企業の従業員を対象とした“働くひと応援ローン”

北海道ろうきんでは、2019 年 12 月より、道内企業の働き方改革の促進および女性の職業生活における活躍推進に向けて「北海道働き方改革推進企業認定制度」、「北海道なでしこ応援企業認定制度」で認定された企業の勤労者を対象とした低利な融資商品“北海道働き方改革推進企業 勤労者応援ローン (愛称：働くひと応援ローン) ”※を提供しています。

北海道と連携して企業の持続的発展とともに、ろうきんの使命である勤労者の福祉の増進に積極的に取組んでいます。

※ ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくは北海道ろうきんまでお問い合わせください。

東北ろうきん

被災した地域や被災者の支援を行うＮＰＯ等の活動を支援する「東北ろうきん復興支援・社会貢献団体助成金制度」

東北ろうきんでは、東日本大震災からの復興・被災者支援に従事する NPO やボランティア団体の活動支援を目的として、2012 年 10 月に「東北ろうきん復興支援助成金制度」を創設しました。

2020 年度からは、「東北ろうきん復興支援・社会貢献団体助成金制度」と名称を変更し、東日本大震災からの復興・被災者支援に加え、東北地域の社会的課題解決に向けて活動している団体など 10 団体に対して 1 団体あたり 30 万円の助成金を交付し、2020 年度までに累計 90 団体、計 2,700 万円の活動支援を行っています。

全国のろうきん

被災地支援団体と連携した東日本大震災の被災地復興支援活動

ろうきんは、東日本大震災の被災地復興支援活動に被災地支援団体と連携して継続的に取組んでいます。2019 年 1 月、ろうきんは、被災地支援団体である「おおくま町物語伝承の会」が、福島県大熊町から会津若松市へ避難した人々の心の軌跡を物語と音楽で表現する『絵おと芝居』を開催するにあたり、復興庁や会津若松市とともにその活動を支援しました。震災後 10 年の節目となる 2021 年 3 月には、『絵おと芝居』の活動を追ったドキュメンタリー番組の提供を行いました。

製作 国際放映

近畿ろうきん

近畿２府４県のＮＰＯ支援センターとの協働による“近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度”

近畿ろうきんでは、2000 年度より「会員組合員を中心とした近畿ろうきんの利用者」と「近畿 2 府 4 県で活動を行なう NPO」をボランティア活動を通してつなぐことで、地域貢献をめざす制度として、“近畿ろうきん NPO パートナーシップ制度”をスタートしました。2011 年度より東日本大震災や熊本地震などの度重なる自然災害を受け、復興・防災・減災支援のプログラムに変更し、2018 年度からは、SDGs のスローガンである「誰ひとり取り残さない」社会づくりに向けた「社会的弱者の“居場所づくり”“支え合いのネットワークづくり”への支援活動」をスタートするなど、社会情勢の変化に応じ本制度を見直してまいりました。なお、2020 年度は、「新型コロナウイルス感染拡大に対する NPO への支援活動」を主なテーマとし、取組みを進めました。

四国ろうきん

ローン契約毎に契約者が選択した寄付先（教育、子育て支援、障がい者支援、環境保護、各関連団体）への寄付

四国ろうきんでは、ご利用いただいたローン 1 件につき 100 円をろうきんが拠出し、ローン契約者が選択した寄付先（教育関係、子育て支援関係、障がい者支援関係、環境保護関係）に寄付を行っています。2020 年度は、のべ 5,471 人の思いやりが結集し、四国 4 県の 4 団体に合計 547,100 円を寄付しています。

全国のろうきん

日本協同組合連携機構（JCA）との連携

労金協会では、国際協同組合同盟（ICA:InternationalCo-operativeAlliance）、および日本協同組合連携機構（JCA:JapanCo-operativeAlliance）に業態を代表して加盟し、協同組合間の連携を深めるとともに、協同組合のパートナーシップを活かして、持続可能な地域のより良いくらし・仕事づくりに向けた教育・調査・研究などに参画しています。

「意思のあるお金」による
社会課題への取組み事例

「特定非営利活動法人 男女平等参画推進みなと」への助成

東京都港区で活動する「特定非営利活動法人 男女平等参画推進みなと」は、男女平等を様々な角度から推進する地域密着型の NPO です。今回、中央ろうきん助成制度“カナエルチカラ”※1 2021（2 年目）の助成が決まったこちらの団体に、改めて活動内容や目的、そして当助成制度の活用方法について取材をさせていただきました。

特定非営利活動法人 男女平等参画推進みなと 事業内容

1990 年代後半から、国内の男女平等関連の法整備が大きく進展し、港区においても『港区男女平等参画条例』が制定されたことをきっかけに 2005 年に設立された団体です。しかしながら、未だにＤＶ・ストーカー・セクシャルハラスメント等の“女性の人権侵害”や、“就労の場での格差”は解消されていません。
当団体では、お茶会からパソコン教室に至るまで様々なプログラムを通じた女性の居場所づくりや、精神面、健康面等で問題を抱える女性たちの個別相談を行うなど、男女平等参画社会を地域から実現することを目的として活動を展開しています。

当団体においてもコロナ禍でこれまでのような活動ができずプログラムの形式は変化し、ビデオ会議や SNS の活用等、運営側にも様々な変革が求められました。また、相談者の抱える問題も、健康面や生活困窮、人間関係に至るまで多種多様になりました。それらに対応するためには、助成金はとても貴重な財源となります。

当団体では、講演会や調査研究、また個人相談等の直接的な支援だけでなく、「安心の居場所づくり」を大切にしています。支援者と相談者が「家族」のような関係を築き、相談者が安心して自分の個性や能力を認めることができるようになることで、問題の根本解決につながると考えています。

南理事長からは、「“カナエルチカラ”の助成金を各プログラムの実施費用に充てることで、それらのさらなる充実はもちろんのこと、これまで無償で手伝ってくれていたスタッフの方にもやっと満足に人件費・交通費等がお渡しできる」とお言葉をいただきました。

“カナエルチカラ”は継続助成制度であり、最長３年間の助成にチャレンジすることができます。当団体においても、改めて活動内容をブラッシュアップし、３年目の挑戦についても検討してくださるとのことでした。

中央ろうきんは、働く仲間を応援する非営利・協同組織の福祉金融機関として、今後もこのような自主的かつ先駆的な事業、地域社会の発展をめざす活動を積極的に応援していきます。

特定非営利活動法人 男女平等参画推進みなと 様

※１ “カナエルチカラ”とは、誰もが生きるたのしみと、働くよろこびを享受できる地域社会の創造へ向けて、＜中央ろうきん＞１都７県で、生活者・労働者の視点に立ち、参加や協力をベースとした新たな自主事業の開発と創造に取組む市民団体を応援する市民活動助成制度です。広く“ひと・まち・くらし”づくりに役立つ発想豊かな活動や働く人が直面する様々な課題に対して多様な働く場・機会の創出に取組む市民団体を応援しています。

「NPO法人おおいた子ども支援ネット」への助成・融資

「NPO 法人おおいた子ども支援ネット」と九州ろうきんとの関わりは、『2014 年度九州ろうきん「NPO 助成」』での「自立支援を必要とする児童や行き場のない子どもを受け入れる“子どもシェルター”開設への助成」を契機に始まりました。

以降、“自立支援ホーム”や“子どもシェルター”の改装資金への融資や「児童発達支援センターかおるおか」※2 の建設資金への融資といった、児童福祉（子どもたちの未来を支援する活動）事業全般に係る融資を行うなど、関係を深めてきました。

また、同団体とは資金提供にとどまらず、「古本の寄贈」や「団体主催イベントへの参加」、「活動に関する意見交換」を継続的に実施するなど、良好な関係を築いています。なお、当団体の職員互助会には九州ろうきんに会員加入いただき、職員の給与振込や財形貯蓄の利用を通じて勤労者の生活・福祉の向上をサポートしています。

この他、同団体は放課後デイサービスや総合相談事業等を運営しており、現在は、国や自治体のモデル事業を進めるなど地域との連携による包括的な事業を展開しています。引き続き、九州ろうきんは同団体と連携し、地域の社会課題解決という共通の目標のもとに福祉金融機関としての役割を発揮していきます。

「児童発達支援センターかおるおか」への支援成果

児童発達支援センターかおるおか

２年間の実績（2021 年 2 月末時点）

1 療育を受けた利用児数（定員 20 名）
- ★利用児実数は、41 名
- ★8,235 回の療育実施
  （療育プログラム延べ実施数：暮らしの中での練習、心の治療など）

2 療育を終えた利用児数
- ★19 名が卒園

3 「NPO 法人おおいた子ども支援ネット」職員数
- ★46 名（うち労金利用者数 46 名）

保護者の声
（「保護者等からの事業評価の集計結果」より抜粋）
- 子どもや家族にとって一番の場所です。全国にこんな場所が増えるといいですね。
- 建物構造が療育用に専門的に作られ、先生も素人ではわからないくらいの専門性をもっています。
- ★「療育を受けて暮らしやすくなったと感じますか」という質問項目に１００％が「はい」と回答

職員の働きがいと生きがい
- 海や空、光などの自然に囲まれた中で、療育効果を実感できる仕事ができ、生きがいとなっています。
- 感染症予防の作業が増え、毎日緊張することも多い繊細な仕事ですが、ハード面でも仕事効率のよい環境で働けることに感謝しています。
- 子どもの成長や家族の笑顔に力が湧き、心身の健康を保てています。

かおるおかの施設長として
- 子どもや家族への療育効果を日々実感するとともに、職員が心身の健康を保ち、いきいきと自分らしさを発揮していることも喜びとなっています。心より感謝申し上げます。

※２ 大分県内の「障がい児童の療育」「障がい児童の家族への相談・支援」を行うための施設

表紙の作品および作者のプロフィール

タイトル「ありがとう」

アーティスト　mai

1985 年山口県生まれ。2014－2019 年「Goo TAG College あすとぴあ 芸術工芸学科」に所属。自分の中から出てきたものを迷うことなく一気に描き上げる。時にやさしく時に力強く、作風はその日その時で変化する。動物を見ることや絵本を読むことが好きで、絵本の登場人物を描くこともある。絵のほかに、刺繍や編み物、アクセサリー制作など様々な創作活動をしている。自分が創作したものを身につけた人が喜んで笑顔になる姿を思い浮かべながら作品をつくっている。

表紙にはエイブル・アートの作品を使用しています。
エイブル・アートとは、障がいのある人たちが「生」への証として生み出した作品を「可能性の芸術」としてとらえ、芸術と社会との関わりを「自己表現・協働・癒し」を柱に考えていく市民活動です。

一般社団法人 全国労働金庫協会　経営企画部
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2 丁目 5 番 15 号
TEL：03-3295-6735　HP：https://all.rokin.or.jp

UD FONT
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

FSC www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C013080